

古典に学ぶ

この時期、中学の国語は古典にはいる学年が多い。「竹取物語」や「枕草子」「徒然草」など、耳なじみのあるタイトルが並びますが、これもまた教科書の改訂によりかなり内容が削減されてしまった。

それでもこれらの作品を読むことで、毎回感心することがある。これらは「古典」と分類され、歴史的仮名遣いや古語と現代語のずれにより一読で内容がわかるとまではいかないものの、その内容は現代においても思わず「なるほど」と感心することが多い。

これは鎌倉時代の人間も、平安時代の人間も、「論語」で言えば紀元前の人間でも、その当時の人の感覚が我々ときほど変わっていないことの証拠であり、逆に言えば、我々は1000年前から精神的にはさほど進歩していないことをあらわしているのである。鳥の声や虫の音など四季の移り変わりに心を動かされたり、恋や情け、欲や不正に喜怒哀楽を感じたりする感性は、時代が変わってもやはりこの国に生まれ育った我々にも受け継がれているものなのであろう。「古典」を読むことは、日本人としての我々の最も根元的な感性や規範を思い起こさせてくれるところにその価値の一つがあるように思う。

一方で「流行」というものは、つい1年前のものでも遅れたものは全く無意味とみなされる傾向にある。その昔1個3万円のプレミアのついた「たまごっち」がバザーで10円でも売れなくなるのにどれほどの時間がかかっただろうか。髪型や服装に関する流行の変化の速さと言うまでもない。それらに敏感な若者といえども、真剣にそれらを追いかけるとなるといくらお小遣いがあっても足りないのは当然である。おのずと経済的には親がそれらを支えることになる。

最近では高校生ばかりでなく、中学生や小学生も携帯電話を持ってメールをしているそうである。また中学になると校則があるからとのことで、小学生の間に髪を脱色したり果ては整形手術までさせたりすることもあるとか。こうなるとさすがに親の意識を疑いたくなってしまふ。

これが現在不景気にあえぐこの国の一面であるというから不思議である。

1000年前より我々は明らかに物質的に豊かになった世界に生きている。しかし残念ながら、我々はそれほど精神的に豊かな生き方をしていないのではないか。むしろ我々は古典の中に「精神的な豊かさ」を学ぶ必要があるような気がする。

2学期中間テスト結果

	高森台中	英語	数学	国語	社会	理科	合計
中	塾生	92.6	91.3	78.4	90.1	84.0	436
3	学年	59.1	65.1	58.6	63.3	59.2	306
中	塾生	87.2	86.1	79.0	84.9	78.3	416
2	学年	62.5	59.0	66.2	65.5	54.6	308
中	塾生	95.1	92.9	90.0	88.6	88.7	445
1	学年	65.9	61.7	82.8	58.1	65.8	338